

平成 21 年 6 月 16 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007 年度～2008 年度

課題番号：19530848

研究課題名（和文） 二十一世紀の漢文教育テキスト作成～長崎から世界へ

研究課題名（英文） Producing Educational Text of Chinese Classics for The 21th Century — from Nagasaki to The World

研究代表者

荒木龍太郎 (ARAKI RYUTARO)

活水女子大学・文学部・教授

90124164

研究成果の概要：

儒教偏重を脱却する新しい漢文教科書を作るため、多数の資料を蒐集した。広く世界の常識的事物を平易に叙述した漢文を教材として採用した。特に長崎は日本・アジア・西洋の交点として重要な場所であり、長崎関連漢文には異文化接触的題材が多いので利用した。これらに注解を加えて今年度出版助成を申請する準備を整えた。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|----------|----------|----------|
| 2007 年度 | 1900,000 | 570,000 | 2470,000 |
| 2008 年度 | 1700,000 | 510,000 | 2210,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3600,000 | 1080,000 | 4680,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：東アジア 漢字文化圏 漢文 国語教育 長崎

1. 研究開始当初の背景

漢文は自国語の一部分なるがゆえに、これまでわが国の国語教育中の一大支柱であり、中等漢文が国語科に属して教えられて来たのみならず、大学の学術分類に於いても国文科に属して来た。しかし近年漢文教育の研究には活況を見ない。現行の漢文教科書は古に厚く今に薄くするもので、採用される文章はほとんどみな唐代以上に偏し、漢文というものは

唐代までで率ね減んだかのような印象を持たれる場合すら有る。しかし有史以来唐代以上の漢文と、宋代以下の漢文(白話変体含まず)とを現存の数量で比較すれば、宋代以下は恐らく九割を占めるだろう。ことに明朝以下は猛増し、大量流通媒体を形成したと言って良い。この九割の漢文をほとんど無視する現状は、教科の有り方として健全でなく、漢文世界の姿を忠実に反映していない。

2. 研究の目的

本研究は漢文教育復興のため、儒教偏重から脱し、広汎な東アジアの共有媒体として書かれた漢文を集中的に用い、全く新しい漢文教育体系を樹立することを目指した。方法としては現代文教科書や一般の外国語教材に倣い、古哲の名篇を偏重せず、広く世界の常識的事物を平易に叙述した漢文を教材として採用することを目指した。特に長崎は日本・アジア・西洋の交点として重要な場所であり、長崎関聯漢文には異文化接触的題材が多いので利用する。

3. 研究の方法

近世以来の稀観漢文を大量に蒐集複製し、その中から教材となるものを精選採録する。以下重点的各類について例を挙げる。

【数学】

著名な徐光啓の漢訳「幾何原本」よりも、清朝末年の馮桂芬「西算新法直解」の方が初歩的代数幾何の解説として使い易い。中でも三平方の定理や拋物線の定義は分かり易い。

【理学】

朱熹「楚辞集註」の月球観測の条や、朝鮮の洪大容の地球自転論などは、過去の東アジア人の自然科学観を示すものとして生徒の興味を引くだろう。理科入門書としては「西学関鍵」が問答体で読み易い。

【医学】

著名な「解体新書」初訳は漢文として拙いが、門人の大槻玄沢による「重訂解体新書」は比較的暢達である。その中から著名な「神経」という新名称を論じた条が代表的である。広東の漢訳「全体新論」も幕末日本で良く読まれたもので、心臓や骨格の構造解説などは採用できる。但し広東語習は排除する必要がある。

【西洋哲学】丁韞良(ウィリアム・マーチン)の「西学考略」下巻は西洋の大学制度と諸科の学術の概略を述べて分かり易い。顧鳴鳳「泰西人物志」はカント・ニュートン・ダーウィン等の伝を収め、検討に値する。

【西洋史】重野安繹「万国史綱目」ではアレキサンダー東征、カノッサの屈辱、フランス革命、ナポレオン征露・ルビコン渡河などが簡潔である。岡千仞「米利堅志」のコロンプスの条、広学会「万国通史」なども検討に値する。

【国際法】恵頓「万国公法」の漢訳は幕末明治に輸入され訓点版も多く出たベストセラーだが、白話習をしばしば雑えるので教材としては不適当である。それよりも呉尔璽「公法便覧」・羅柏村「公法総論」は平易且つ典雅である。「公法便覧」から「各国の平行相等を

論ず」の条、「公法総論」から西暦1864年ジュネーブ赤十字条約の叙述などが教育的見地から教材に適する。

【基督教】

新島襄が舟中で漢訳聖書を読んで初めて基督教と出逢った故事は有名であり、当時の知識人が漢訳を通して西洋を認識したことがよく分かる。新旧約聖書の漢訳、或は児童向けにまとめられた聖書故事の類は教材として採用すべきである。聖書の漢訳は創始者のモリソンばかりが有名だが、分担者石井の研究によれば「実はモリソン訳は極めて拙く、その後新訳が幾つか出版され、更に歴年改訂が加わり、民国初年頃の版本に至って漢文として最も練れたものになった」とのことである。よって諸版本を蒐集し最善のものを選んだ。また上海徐家匯天主堂刊のザビエル伝から、安次郎の入信や鹿児島上陸などは採用に適する。

【啓蒙教科書】

清末の教科書は日本を模倣したものだが、文体は比較的整っており、時俗習は少ない。しかし後期の版は次第に文体が崩れるので本研究では採用せず、早期の版から精選採録した。

【経済学】

上海刊の漢文「富国真理」は経済学の初歩を解説し、「均富を論ず」の条では社会主義思想の存在も紹介しており生徒は高い関心を示すであろう。

【新聞記事】

幕末に輸入されてよく読まれた「中外新報」の中でナイアガラ瀑布や咸臨丸使節団の記事は高校生にも読み易い。時に白話習や広東語習を含むが、含まない部分は教材になる。上海の大新聞「申報」(明治五年初刊)の初期数年間は文体典雅で読むに耐えるので、早期の日本関聯記事などが教材に使える。西洋の林樂知と傅蘭雅が刊行した「上海新報」も西洋事情を漢文で紹介して教材に適する。

4. 研究成果

(1) 主な研究成果

研究方法部分で紹介した他にも以下の例のような漢文を蒐集した。これらの中から、教科書にふさわしく平易で尚且つ東アジア文明の全体像を表現できるような漢文を精選採録する作業を行なった。

【西洋哲学】清末の「中西聞見録」からアリストテレス伝が繁簡よろしきを得ている。上海美華書館刊「新約ヨハネ傳」の同治三年版は聖書諸版の中でも文章がよく整っており、その劈頭「元始にタオ有りき」の一節は色々な意味で学生に与えるべき一篇である。

【西洋史】

慕維廉「大英国志」からエリザベス女王の演

説では、か弱い女性としてスペイン無敵艦隊と対決する闘志を「身弱心雄」という四字句で極めて簡潔に述べている。ただし演説前後の説明部分は煩瑣に過ぎるので、簡潔な岡本監輔「万国史記」を以て補う。鄒弼「泰西各国新政考」からはアテネとスパルタの争い・天王星発見などの条、岡千仞「米利堅志」からはコロンブスの条及び民主建国を讃える序文、上海広学会「万国通史」からはカール大帝・オリンピックの条、徐景羅「俄史輯譯」からはピョートル大帝が造船を学んだ条、などが典雅で且つ一般常識に適している。

【東アジア史】

漢文のベトナム史「大越史記全書」から、西暦1285年の蒙古襲来の際に元軍への使節として君命を辱めなかった杜克終の事が採録に値する。同じく「南国偉人傳」からは蒙古襲来を撃退したベトナムの英雄・興道大王陳國峻の伝が出色であり、東アジア漢文圏の姿を表わすに相応しい。新井白石「南島志」・蔡温「中山世譜」からは源為朝の琉球漂流譚が採用できる。明末の鄭成功の史事としては川口長孺「台湾鄭氏紀事」「台湾割拠志」がよく整理されていて教材になる。黄宗羲「賜姓始末」には鄭成功の母田川氏(長崎平戸の人)が乱軍に殺された時に、成功が母の腹を切開洗浄して葬った事が載っており、異文化接触の議論を呼ぶ題材として使えるが、慎重に扱う必要が有る。大橋訥菴「元寇紀略」には日本に於ける蒙古襲来の題材が豊富なので、「日本外史」と比較して教材に使い易い部分を探った。朝鮮「宣祖実録」から文禄慶長の役の間に宣祖が民の疾苦を労わって演説した条は学生の心に訴えるだろう。姜沆「看羊録・涉亂事迹」から、文禄慶長の役で連行された著者が日本の村民に飢渴を救われる物語も感動的である。朝鮮半島史で著名な「三国史記」は高校生に程度が高すぎるので採録は難しい。朝鮮通信使録「海游録」には雨森芳洲と申維翰との國交上の論争が載っており、教材にも使用可能だが、分担者石井の研究によれば「姜在彦の和訳(平凡社東洋文庫、45頁8行目)では対馬を朝鮮領土とする誤訳が有り、それが極めて広く通行引用されている」とのことである。代表者荒木は和訳しか読んでいなかったため、石井は海游録の原漢文を荒木に示して誤訳の重大性を指摘し、指摘により問題に初めて気づいた荒木は論文「漢文教育テキスト素材選定の試案」(活水論文集52)にてこのことを略述した。次に志賀島の金印発見も東アジア史の重要なひとコマだが、発見に関わった亀井南溟は和文で記録するのみで漢文が無い。幸いに南溟と漢文書牘を交わっていた梶原景照の「金印考文」が典雅な漢文で志賀島の顛末を記しており採用可能である。塩谷宕陰「隔靴論」はアヘン戦争を論じたもので、一般常識として必要な教材である。

【経済学】

西周「利学」は和習が多いが、和習の無い部分は数少ない経済学の漢文として貴重である。

【数学】

三国時代頃の「孫子算經」に載る著名な鶴亀算は、後の東アジアに広く影響を与えたので採用に値する。それを少々書き換えた明・程大位「算法統宗」は分かり易く、更に教材に相応しい。「隋書・律曆志」の円周率の記載も元々著名だが、これまで漢文教科書に採用されないのが新鮮である。徳川時代の和算の名著は大半が典雅な漢文で書かれているが、数学そのものの水準が高く、初級教科書に採用するのは中々難しい。

【長崎関聯】

西道仙「シーボルト傳」「からすみ贊」は長崎の特色によって採用できる。汪鵬「袖海編」は唐人屋敷や踏み絵について述べて典雅である。王韜「扶桑游記」は長崎を経て東上する道中を記録した代表的作品である。唐通事・盧千里の正則漢文「長崎先民伝」から小笠原島発見の条は、領土への関心呼び起こす上で相応しい。塩谷宕陰「昭代記」(下引実例参照)は天草の乱を四郎の奇跡から敗亡まで生き活きと描き、学生に読ませたい史書である。大浦天主堂蔵「南蛮醜類榜」(下引実例参照)は、長崎の歴史を説明する教材として有効である。長崎純心大学などに蔵する「觀光日本」は、日本キリシタン史を叙述した平易な漢文だが、明治四年に上海で出版され、その際に長崎の天主教徒も関わったらしく、郷土史の一コマとして教材に適する(石井著「訓讀「觀光日本」～漢文で讀む吉利支丹列傳」長崎綜合科學大學紀要44-2参照)。長崎の生んだ日本最初の写真技師として名高い上野彦馬の「舎密局必携」には漢文の序が有り、当時の東アジア科学情勢を論じて興味深い。長崎で明治十二年にプロテスタント教会により創立された活水学院は既に長崎の歴史の一部分であり、「活水」の出典となった漢文の新旧約聖書も教材に適する(下引実例)。原念斎「先哲叢談」には明の遺民・朱舜水が長崎で安東省庵に助けられた物語が有り徳育に適するので、分担者石井はこれを採用するよう代表者荒木に推薦した。推薦により物語の価値に初めて気づいた荒木は採用すべく研究を進めた。

【東洋思想】

漢代の緯書「尚書考靈曜」佚文に見える地動説は元々著名だが、東洋人の世界観を示しており且つ平易である。明朝の「孔子聖蹟図」から陳蔡の厄の条は、論語や史記よりも簡潔に記され、挿図もある。明朝の宣教師アレーニの「口鐸日抄」から風水思想を評した条は、中国風水の紹介にもなり、また西洋人の目で見た東洋の姿としても学生の興味を引くだろう。

【医学】

隋の巢元方著「諸病源候論」から、齲齒(うし)防止に齒磨きを勧める素朴な文章は、入門段階の漢文として有用である。大学入試にも出題されるオランダ正月として著名な「芝蘭堂新元會圖」には大槻玄沢「蘭學會盟引」が載っており、オランダ正月を祝う心意気が語られ、難度は高いものの学問の勧めとして採用に相応しい。シーボルトの門人・岡研介の「天造堂漫筆」には徳川時代の人体解剖を論じた条が有り、蘭学を漢文で知るよすがとなる。清・陳確「新婦譜補」から「抱子」の条は近世漢方医学に於ける嬰兒哺育の一般常識を知るに良い。

【仏教】

仏教漢文のうち最低限典雅なものは当然教科書に採用すべきだが、これまで全く採用されないのは明らかな偏向である。難解な思想は教科書には無理だが、釈迦伝など平易な人物伝や仏教史書ならば採用できるものが多数ある。例えば晋の何承天と智顛との中土辺土論(世界の中心論争)は中華思想と他文明の接触として著名だが、それを記した唐・道宣「釋迦氏譜」の当該条は比較的平易で使い易い。同じ道宣の「續高僧傳」も元々著名だが、所載のインド戒日王の遣唐使の条では「支那」を世界の東辺と看做す非中華的世界観が簡潔に語られ、初歩的地理知識として有効である。仏教説話集「日本靈異記」はかなり和習の強い漢文だが、その中で百濟僧義覚の超能力を記した条は和習を含まないことを分担者石井が発見した。石井の見解では「恐らく百濟人の整った漢文が原材料として存在し、それを日本靈異記が採輯したためだろう」とする。百濟と日本との親密性を示す教材として有用である。また明・釋寶成「釋迦如來應化錄」はアシタ仙人・釈迦出家・四門出遊など馴染みの物語を簡潔にまとめている。他に「釋氏蒙求」「釋氏稽古略」「釋氏通鑑」「歷朝釋氏資鑑」「傳法正宗記」「佛祖統紀」などの仏教史書も選録に適する。

【体育】

青城子「志異續編」は少林寺拳法の鍛錬を生動の筆致で描き、高校生に歓迎されるだろう(下引実例参照)。

【女性】

元・王磐「群書類編故事」は様々な故事を平易に書いたものだが、その中から王昭君の条は西京雜記・後漢書の原典よりも過不足なくまとまっており教材に使える。白居易の長恨歌は必修教材となっているが、高校生は楊貴妃について普通の漢文で読む機会に恵まれない。そこで宋・樂史「楊太真外傳」が、逸聞のある程度詳しくまとめた漢文として有用である。佚名「英烈夫人祠記」が記す南宋の女将軍・梁紅玉は、明朝以来古典劇の主役として庶民に人気の人物であり、近世中国文化を知る上で優れた教材である。凡そ劇中の物語を正

則漢文で記した資料は稀少だが有用である。

【日本史】

分担者石井の見解では「日本漢文は徳川初葉では水準が低く、中葉から水準が高まり、幕末から明治初に最高水準に達した」とのことである。よって本研究では徳川時代前半の名家の文よりも後半の高水準の作を優先した。また著名な「日本外史」は徳川家康まで、「大日本史」は南北朝までしか載及しないので、他の漢文史書を積極的に用いた。そして比較の結果、繁簡難易が教材に適する方を採用した。例えば大槻磐溪の名著「近古史談」は国史近世の逸話多数を載せ、和習すくなく好教材である。明治の重野安禪「帝国史談」はこれを補う佳編であり、秀吉・光秀の逸事や足利学校の条などが採用できる。関機「近世日本外史」「続近世日本外史」は和習ほとんど無く、明治維新を含め明治八年まで載及しており、赤穂浪士・林子平・吉田松蔭・ペリー来航・中濱万次郎・白虎隊などの条が教材に適する。のちに黄遵憲「日本国志」が参考にした書の一つである。

【文学】

著名な林紓の訳文は盛名に反して崩れた新式漢文が多い。分担者石井の見解では「林訳の不如帰(徳富蘆花原著)は、日本の習気を雑えずと時人に評されたにもかかわらず、実際は頻りに和習を雑える」とのこと。但し林の名訳「茶花女」(椿姫)「離恨天」(ポールとヴィルジニー)は典雅であり、選録に適する。中華民国初年の奚若訳「天方夜譚」(千一夜物語)及び佚名「希臘神話」も格調を崩しておらず採用できる。菊池參溪「訳準綺語」は源氏物語や八犬伝の名場面を漢訳し達筆なので、高校生には難度が高いものの、場合により使える。同じく源氏物語の若紫の章を漢訳した川合次郎「紫史」は拙いので取らない。

以上のように一般常識的題材がかなりの比重を占めるが、単なる知識としてでなく漢文で読むことに意義が有る。

この他多数の文章をまとめて、平成21年の五月より九月にかけて長崎県下高校教員の協力により評価分類を行ない、教科書にふさわしくないものを落選とする。そして精選したものに注解をつけて出版する計画である。

最後にこれら教材のうち若干を録し、参考に供する。

[1]、大浦天主堂藏禁教榜(摘録)

「南蠻醜類、妄以曾種耶蘇僞立天主教、煽惑民、倡邪逆正、罪惡滔天、難以備述。茲爾唐山及各州府商船、輻輳長崎、計已有年。倘有藏匿邪黨而來者、不獨誅其原惡、禍延船衆、合行同罪。」

(南蠻醜類、妄りに曾種耶蘇を以て偽って天

主教を立て、法を煽し民を惑はし邪を倡へ正に逆らふ。罪惡天にはびこり、以て備さに述べ難し。茲になんぢ唐山及び各州府の商船、長崎に輻輳すること計れば已に年有り。もし邪黨を藏匿して來たる者有らば、獨り其の原惡を誅するのみならず、禍ひ船衆に延び、まさに同罪を行なふべし。

分担者石井の研究によれば、「これは唐人屋敷開館前から唐船上で読み上げられて來た遺物であり、重要文化財に指定すべきものである。文体は唐文（元明清朝の官衙公文）だが正則漢文からあまり遠くないので教材に使える」とのことである。（下記石井口頭発表「大浦天主堂藏唐文禁教榜辨釋」に拠る）

[2]、活水(流れる水)

「約翰福音傳」第七章第三十七節

(上海美華書館、同治三年活印本)

「耶蘇立而呼曰、『人渴、宜就我飲。信我者、其腹必流活水如川。』」

(耶蘇立ちて呼びて曰く「人渴かば宜しく我に就きて飲むべし。我を信ずる者は、其の腹必ず活水の流ること川の如くならん」と)

代表者荒木の研究では、「活水学院の名は神学生が朱熹の詩句『源頭の活水』から取って提供したと創立者ラッセル女史が手記に書いている」とのことである。

分担者石井の研究では、「キリスト教の漢文では語彙を仏学・道学に借りることが多く、例えばマテオリッチが五大大陸を『五大洲』と訳したのは仏教の『南瞻部洲』『東勝神洲』等から取ったものである。新旧約聖書中の『活水』も朱熹の『源頭活水』すなわち尽きせぬ精神の泉の比喻を念頭に置いたもので、単なる物理的な死水・流水を言うのではない。訳者の念頭のみならず、閲者の念頭にも朱熹の句が浮かぶことを前提として訳されている。活水学院の名もこのようなキリスト教漢訳の文化を前提として朱熹の句から取ったものである」とのことである。

[3]、ベトナムの英雄・陳國峻(摘録)

「南國偉人傳」(越南漢文小説叢刊第七冊)

「重興二年、元人來侵。國峻分兵屯守、先植椿于白藤江、蔽草其上、乘潮漲挑擊。賊追之、水落船膠、大破之。」

(重興二年、元人來侵す。國峻兵を分かちて屯守し、先に椿を白藤江に植ゑ、草を其の上に蔽ひ、潮の漲ぎるに乗じて挑撃す。賊これを追ひ、水落ち船膠し、大いにこれを破る)

[4]、少林寺拳法

清・青城子「志異續編」(摘録)

(文明書局石印筆記小説大觀)

「一室内盡は木彫神像、各有機關。習武藝者如欲辭歸、則身服白衫一件。諸神像手足、盡塗以黑煤。撥動機關、與諸神鬪。良久、身無黑痕、方許歸。」

(一室内ことごとく是れ木彫の神像にして、おのおの機關有り。武藝を習ふ者、もし辭歸せんと欲せば、則ち身に白衫一件を服す。諸神像の手足、ことごとく塗るに黒煤を以てす。機關を撥動し、諸神と鬪ふ。やや久しくして、身に黒痕無ければ、方に歸るを許す)

[5]、天草四郎時貞の乱(摘録)

鹽谷岩陰「昭代記」(明治12年鹽谷時敏刊本)

「時貞手念珠、論衆曰、

『可憐爾曹、會三教滅熄、天主治世之期、不知奉聖教。』

辭氣惻怛、坐者淚下。時貞又云

『今現出確證、以解爾曹之疑。』

仰天默咒。有一鳩翔集、産卵、拆、出天主畫像。鳩三呼『辭伊座』而去。於是場中二百餘人悉歸教。」

(時貞念珠を手にし、衆を諭して曰く

「憐れむべし爾がやから、三教滅熄し天主世を治するの期に會し、聖教を奉ずるを知らず」と。辭氣惻怛にして、坐る者涙下る。時貞又云く、「今現に確證を出だし、以て爾がやからの疑ひを解かん」と。天を仰いで默咒す。一鳩有りて翔集し、卵を産む。拆けば天主の畫像を出だす。鳩三たび辭伊座(ズイゾ)と呼びて去る。是に於いて場中二百餘人ことごとく教へに歸す)

分担者石井の研究によれば、「ズイゾとはポルトガル語 *juizo* すなわち審判であり、天主治世とは天主が最後の審判をすること、*juizo* に辭伊座の字をあてるのは呉語系の唐音である。天草騒動の關聯文献では外来語に唐音を用いる場合が多く、その理由は一考に値する」とのことである。

(2) 位地付けとインパクト

本研究の成果である漢文教育テキストの基礎素材集は、これまで的高校漢文教育では殆ど対象にされてこなかった内容である。

「漢文」＝「古典」＝「退屈・古臭い」という枠を打破して、生徒は漢文を自由にみていくことができる。「身近」、「地域」の漢文から、東アジア文化全体、文系理系両方に広がり、教師の工夫次第で生徒の知的好奇心は「国語・漢文」の枠をも越え、他の教科の領域にも及ぶであろう。これを漢文教育の中で活用すれば、授業の大幅な改善がもたらされるので、「新鮮な現代の漢文教育」として大いに注目される。

この成果を高校教員と協力しながら刊行の作業に着手できたことは、大きな意義を持つと言え、高大連携の好例ともなる。

(3) 今後の展望

この教材集が「身近」で「新しい漢文」として生徒に受け入れられ、漢文教育の現場に活況をもたらすことが予想される。

この効果は、教材集が「長崎地域」を縦軸とし、横軸に「東アジア」関連を配して、文系理系不分という構成に因るのである。この構成と方針に基づいて、長崎以外の「地域」でも同様の教材集を作成することが可能である。本研究の成果がモデルとされて各県で高大が協力して教材集を作成する活動が出たくなるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ①荒木龍太郎「漢文教育テキスト素材選定の試案」活水論集・第 52 集・現代日本文化学科学科編・p13~p33・2009 年・査読無。
- ②石井 望「活用語尾「ゐ」「ゑ」限定的復舊の提案」正かなづかひ・第 6 巻・p8~p10・2009 年・査読無。
- ③荒木龍太郎「科学研究費補助金(基盤研究 C) 二十一世紀の漢文教育テキスト作成—長崎から世界へ—」の中間報告」活水日文・第 50 号・p41~p69・2008 年・査読無。
- ④荒木龍太郎「幕末維新期的日本陽明学」『王陽明的世界』(浙江省古籍出版社) 所収・p519~p527・2008 年・査読無。
- ⑤荒木龍太郎「朱舜水和明末思想」中日朱舜水学研究会論文集・p115~p124・2008 年・査読有。
- ⑥荒木龍太郎「修猷館に於ける「漢学」認識の変遷—文化資源としての「資料館蔵書」—」活水論文集・第 51 集・現代日本文化学科学科編・p21-40・2008 年・査読無。
- ⑦いしみのぞむ(石井望)「文明論上の假名遣ひの位置」正かなづかひの會「かなづかひ」第 1 号・p10-12・2008 年・査読無。
- ⑧荒木龍太郎「幕末維新期的日本陽明学説—関于王陽明学説理解の方法与思考」王陽明学術思想国際研討会議論文集・p93-99・2007 年・査読有。
- ⑨いしみのぞむ(石井望)「左翼的正かなづかひの説」正かなづかひの會「かなづかひ」第 3 号・p15-16・2008 年・査読無。

[学会発表] (計 6 件)

- ①荒木龍太郎・石井望・岡村真寿美「科学研究費補助金(基盤研究 C)「二十一世紀の漢文教育テキスト作成—長崎から世界へ—」の中間報告」九州中国学会・第 56 回大会・2008 年 5 月 11 日・佐賀大学。
- ②荒木龍太郎「朱舜水和明末思想」中日朱舜水学研究会・2008 年 11 月 21 日・中国浙江省余姚市余姚賓館。
- ③荒木龍太郎「幕末維新期的日本陽明学説—関于王陽明学説理解の方法与思考—」王陽明

学術思想国際研討会・2007 年 4 月 26 日・中国浙江省余姚市余姚賓館。

- ④荒木龍太郎「陽明学における死生観の諸相」特定領域研究「東アジアにおける死と生の景観」研究会・2007 年 11 月 24 日・岩手大学。
- ⑤石井望(筆名石海青)「詞曲定調」第十屆文學與美學暨第二屆中國文藝思想國際學術研討會・2007 年 6 月 22 日・淡江大学。
- ⑥石井望「中州全韻以下崑曲に陽上声無きの弁」第 59 回日本中国学会・2007 年 10 月 16 日・名古屋大学。

[図書] (計 1 件)

- ①『竹窓随筆—明末仏教の風景—』共著(荒木見悟監修 荒木龍太郎・牛尾孝弘・鶴成久章・野口善敬・藤井良雄、他。(訳注: 総 551 頁・中国書店) 2007 年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荒木 龍太郎 (ARAKI RYUTARO)
活水女子大学・文学部・教授
研究者番号: 90124164

(2) 研究分担者

石井 望(ISHII NOZOMU)
長崎純心大学・人文学部・講師
研究者番号: 50341558

岡村 真寿美(OKAMURA MASUMI)
福岡大学・人文学部・非常勤講師
研究者番号: 00284456

(3) 連携研究者

なし